

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471902120	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	令和3年12月1日
法人名	福祉ワーカーズコープ ふれんど		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	（ 238-0024 ）		
	横須賀市大矢部3丁目30番6号		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 9 名 ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	令和6年10月25日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

令和6年12月で設立25年を迎えました。 超高齢社会、進む少子化の時代の中であって、職場として若い人達にも振り向いて貰えるホームづくり、効率の良い運営をしていかねばならないと思案中です。 コロナ禍後、地域の方達とも前のような交流は少々難しいのですが、そのぶんホーム内の雰囲気はぐっと絆が深まり、一緒に歌ったり、ゲームをしたり、昔の思い出話に夢中になったりと笑い声があふれています。 コロナもインフルエンザも、これ迄一度もホームではおこることなく、健康と医療の安心度には自信があります。 和やかで穏やかな日々をみんなで送れるよう職員もみんなで頑張っております。 今日も、すぐ近くの小学校の運動会の練習の音が響いています。 猛暑をくぐり抜けたさわやかな風が丘の上のホームのカーテンを涼しげに揺らんでいます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年12月6日	評価機関 評価決定日	令和7年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急線「北久里浜」駅より京急バスで「佐原橋」下車、徒歩15分の高台にあります。小学校に隣接した静かな住宅地にあり、広い敷地の邸宅を改造した2階建て和風創りの建物です。敷地内には児童デイサービス事業所も併設され日々、子供の遊ぶ姿や声が見聞きできる生活境です。 <優れている点> 事業所では設立当初からの「4つの理念」を大切にし、職員一人ひとりの行動の指針となっています。「利用者とはひとつ屋根の下で共に生きていく」ことを掲げ、「笑顔・笑顔・笑顔」を職員全員が実践し、事業所を明るい雰囲気の中で包んでいます。常に「学び」の姿勢を心掛け、それが利用者に対する支援行動にも反映されています。 <工夫点> 利用者の意思の尊重を常に心掛けています。定時排泄を止め、本人のタイミングでトイレに行けるようにしています。「今トイレ空いているけど大丈夫？」「お茶の前にトイレどうですか？」など無理強いせずに自然に本人が行きたい気持ちになるように促しています。また、食事は業者から材料を仕入れ、複数の調理師資格を持った職員が手作りで提供しています。利用者の希望を聞き美味しい食事を楽しんでもらえるような工夫をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム ふれんど
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの要所、要所に理念を張っており、常にみんなと共有していることを認識しており実践している	事業所設立時に策定した理念を全職員で共有しています。理念を目立つ場所に掲示し常に職員の目に触れるようにしています。ミーティングの際には理念に立ち返り、話し合いを重ね、理念に基づいた実践に繋げています。職員に理念が浸透しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	回覧板を回したり、ごみ収集所の掃除などは平常の仕事となっている。道路掃除、草取りなどしていただくこともある	地域の一員としてごみ収集所の清掃を続けています。また、事業所に地域の人が草むしりの手伝いに来てくれたり、普段から交流が多くあります。コロナ前、敬老の日に手づくりのおはぎをボランティアや地域の人に配っていましたがコロナ禍で出来なくなっており、再開を検討しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	団地の自治会に「認知症とは」や「ホームの選び方」などの学習会に呼ばれお話することもある			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、ホームの状況を報告したり、困っている事を相談している。ホームの従事者不足から、紹介をお願いしたり、働きかけの方法などアドバイスしていただいたりしている	利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、市役所職員が参加しています。出席者は困りごとなどに親身に相談に乗ってくれ、困った時は何でも言って、と頼もしい言葉をもらっています。民生委員から行事の誘いなどもあり、頼りになる存在です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括センターとは、推進会議に参加していただいたり、学習会の案内やタオルなどをいただいて感謝している。市に対しては、迷ったり、わからない事はすぐに相談することになっている。	市役所担当者は年1回運営推進会議に出席しています。メールなどで情報提供を受け、事業所の運営に生かしています。困ったことがあればすぐに相談できる関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング後の内部研修などで拘束等の適正化の指針を学んでいる。 拘束を必要とする場、時をまだホームとして一度も経験していない。	定期的に委員会を開催し、ミーティングなどでも具体的事例などについて話し合い共有しています。普段から職員同士で気を付けて、身体拘束につながりそうな事のないようお互いが注意を合っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の研修は内部研修やズームでよく行われている。 虐待のつもりではなくても適正なケアではない介護をしてしまう危険もあるので、お互いに注意を払っている。	定期的に委員会を開催しています。ミーティングなどで職員の思いや相談などを聞き、虐待に繋がらないよう職員の気持ちを落ち着かせ心身の健康を保つように心掛けています。また、利用者への理解を深める事が虐待の防止につながると考え日々努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護は虐待防止時の研修時に学んだ職員が多い それらを活用する時と場がよくわからない 入居者に対し、「介護をしてあげて」と絶対に思っていない事を職員は周知している。ホームは共生の場である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約事項は理解、納得をしていただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	敬老の日や夏祭りなどに、推進会議のメンバーをお招きしたり、ご家族と親しんでいただけるよう配慮しているが、この2年、コロナ禍で開かれていない。親しくなると何でも言いたい事を言っていただける。すぐに反映させている。	家族には運営推進会議に参加してもらい、意見をもらっています。また、来訪の際や電話などでも話を聞き、意見や要望を聞き出すようにしています。毎月請求書と共に手書きのお便りを写真付きで送り近況を報告し、意見や要望を出しやすい環境を作っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人として、一年に一回、必ず開かれる総会の場で運営方針などを説明、賛成、反対の意見を聞き、一致させている	全体ミーティングは全職員が参加できるよう夜の時間帯に開催しています。日頃の思いや考えなど活発な話し合いをしています。行事の計画などは職員の発案で企画されることが多く、夏祭りに神輿を作ったり、ミカン狩りなども実施しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ミーティングの場で意見をきいている。反映できること、できないこともあり、説明して理解してもらっている。又、法人として労務士もお願いし、労務状況を常に整備している。	職員が仕事へ前向きに取り組めるよう、定期昇給や賞与の支給などを行っています。有給休暇はできるだけ希望に添えるように配慮しています。勤務中の休憩は休憩スペースを用意し、時間通り取るよう促しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護保険報酬があまり変わらないので給与は処遇改善なども重要であることなど説明している。 職員の出入口など便利良く整備し、常に清潔で明るく仕事に入っている。	研修の年間計画を立てミーティングの後の時間などを使って開催しています。オンラインでの研修や県主催の研修にも参加しており、勤務時間中に受講できるように配慮しています。資格取得の研修については費用の補助もしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	働きながら、お互いに注意しあっている。それを素直にきき、技術を上げている。管理者は他のグループホーム管理者などと交流をはかっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者にこれまでの生活歴や現状の説明をよくきき、大きく入居者を把握出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に自宅や入居前の施設に訪問を実施し、本人や家族と面接を行い、ホームでの生活に対する意向を聞いている。 翌日必ず電話をして、夜寝たかどうかの報告		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム到着後、先ずトイレに誘導し、お茶を勧める お隣の人と「初めまして」の挨拶など		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームの理念が共生である、大家族のように常に笑顔で生活とある。実践できている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会にいらした時に、職員の誰もが親しくし、日頃のその入居者さんの話ができるよう安心していただけるよう話せる雰囲気をつくる		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外あまりいない ・ご本人の生活歴を把握し、故郷の話題、趣味活動等をレクリエーションの場で提供していくようにしている	家族と墓参りや法事に出席する人、馴染みの美容師に訪問カットしてもらう人、家業の従業員と外食に行く人、年賀状の宛名支援を職員にしてもらう人、など様々です。 家族と受診時には外食の提案をするなど施設長は馴染みの関係が継続出来るように支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	みんなで手をつないだり、みんなの力で完成させる壁貼絵をつくるなど意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	フォローに努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・1回／月のモニタリングを実施 ・ケアプランの短期目標期間終了時にアセスメントを実施 ・1回／月のミーティングを開催し、本人の状態の把握し、対応を検討している	日々のケアの場面で利用者の思いを聞き取っています。そわそわした素振りがあれば「お茶の前にトイレ行きませんか」と声かけしたり、寿司の希望があれば回転寿司に出かけています。表出困難な場合は家族に聞いたり職員が表情から汲み取って思いを図り共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前に自宅等に訪問し、本人、家族に面接し、アセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・週間サービス計画書を元に本人の過ごし方を把握している。 ・本人の心身状態等に関しては、日々、変化するので、職員間の申し送り時、申し送りノートを活用し、把握に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成までの流れ：アセスメント（家族には電話で実施）→原案作成→サービス担当例会議開催（ホーム長、管理者、ケアマネ、職員等参加）→ケアプラン確定（家族には郵送にて承諾依頼）→モニタリング実施→見直し実施	ケアプランは医師や看護師の意見、利用者、家族の意向を聞いて全職員が参加するミーティングで話し合い作成しています。毎月モニタリングを行い、ケアプランは短期目標6ヶ月、長期目標は6～12ヶ月となっています。状況が変われば随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・介護記録記載実施 ・介護記録にケアプランを添付しケアプランの内容を共有 ・1回／月にミーティング（モニタリング実施）を開催し、職員間の情報を共有		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族のニーズが現状の入居者のニーズとずれることもある。ニーズの多様化に対し、対応できるよう工夫している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍以来、地域資源活用が難しくなっている ・地域の訪問看護を1回／週、利用し、細やかな医療的な管理を実施。 ・馴染みの理美容店がある場合は馴染みの店から訪問、又理容ボランティアも利用している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・かかりつけ医とは、開所以来の信頼をもって関係が維持できている ・訪問診療：内科、精神科：2回／月 歯科：1回／週 ・外来受診は家族やホームの職員が同行し、情報を共有している	希望の医療機関を選択できますが、全員が事業所の嘱託医をかかりつけ医としています。歯科医は毎週、内科と精神科の訪問診療が月2回あり、訪問前に健康状態や薬、認知症状を施設長がfaxで伝えています。毎週同じ診療所から看護師の訪問があるなど連絡連携が取れています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	1回／週の訪問看護師は長年の信頼関係にあり安心している。 健康チェックでの看護師の把握が職員に適切な健康介護をすることが出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や入居者との信頼関係が深いのでバイタルからの健康把握を病院に情報提供し、調整を取っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「看取りについての確認書」の説明をし、方針もお伝えしている。それでもその時を迎えたら考えが変わる時もあり、その時で対応するようにしている	入居時に看取りの指針に沿って説明し同意書もらっています。看取りを希望する人も多くいます。看取りの場合は家族、医師、職員で話し合い、方針を共有しています。家族の希望で医師の許可のもと職員と一緒にミキサー食をスプーンで一なめしてもらった事例もあります。研修は随時施設長が行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訪問提供医師やナースの指示を仰ぎ、指示、指導を受ける		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	内部研修と内部訓練をしている	災害・感染症BCPを作成して備蓄を配備しています。昼夜を想定した避難訓練を年2回実施しています。2階の利用者は非常口近くのベランダに避難して救助を待ちます。横須賀グループホーム協議会の声かけで近隣5施設間で協定を結び、年に2～3回交流連携しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇研修に参加した職員から内部研修の形でミーティングで学ぶ。また、入居者様の人権や法の遵守など休憩時間に話す	倫理綱領や法令遵守について全職員が参加する総会で毎年伝えています。接遇研修に参加した職員が伝達研修を実施して共有しています。居室はノックと声かけを行い、着替えやおむつ交換時は必ずドアを閉めてプライバシー保持に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	朝、「今日は着替え、どの服にする？」ときくとうれしそうに「そっち、いやこっち」と選んでいる			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時間などに追われ、職員の都合により介護にならないように気を付けている。落ち着いた穏やかな一日を目指している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	1回／2か月の訪問美容が楽しく、さっぱりした。きれいになった。すてきなヘアスタイルと一日中楽しい会話が弾んでいる			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材は取っている 職員は自分でおいしい！と思う料理づくりをしている。季節食や行事食は必ずしている	職員数名が調理師資格を所持し、業者からの食材で手作りしています。食事前に嚥下体操を行い誤嚥防止に努めています。おせちやちらし寿司、職員手打ちの年越しそば、リクエストのオムライス、手作り誕生日ケーキなど利用者の楽しみとなっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養、水分を獲得に気をつかう また、健康保持するには手時の食事など規則正しい生活の維持を心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨きを必ず介助し、又、訪問歯科医が来て治療だけでなく口腔ケアもお願いしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々に排泄のパターンがあり、その人によってお腹をもむこともあったり、一緒にいきんでみたりなど、さりげなく気を使っている。失禁はほとんど少なく、ほとんどの方がトイレで排泄している	定時排泄は行っていません。一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表、排泄記録で共有して「お茶の前にトイレに行きませんか」とさりげなく声かけし、トイレでの排泄が出来るように支援しています。排便間隔についてはその人に合わせて医師から処方された薬を内服しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便意があってもいきめない方など、腹を大きく揉んであげる。これがおおきな力とんる。又水分をとるよう進める		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	2回／週の入浴 入浴中は職員と会話をしたり、歌を歌ったりとゆったりしている。又そんなときに部屋では見せない素のご自分をだしていっちゃう事がわかる。菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいる	週2回入浴出来るようにしています。入浴前に脱衣所にそれぞれの着替えを用意してかごにいられています。寒い時期は浴室内の床暖房をつけ、脱衣所はストーブをつけてヒートショックに備えています。湯は汚れたら入れ替えをし、最後は洗って有事に備えて新しい水を入れています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は基本的にリビングに居て起きていることが多い。自室で、一人であることはとても淋しいらしく、みんなリビングにいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬したと間違いないかのwチェックをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食後、職員が食器を洗い、ご入居者に食器拭きをしてもらっている。又、新聞でゴミ箱を折るなど自分も何か役にたっているとの喜びを持ってもらっている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	予定をたてての外出でなければ一人ひとり職員が連れ出すことはできない ご家族と一緒に外出は2日前までに申し出てもらって実施。 コロナ、インフルエンザ流行時はお断りしている。 夜は6時まで。	毎年、三浦海岸に河津桜を見に出かけたり、花見ドライブもしています。家族と外出する人もいます。朝の旗揚げ体操や午後にはYouTubeでズンドウ体操を毎日行っています。しりとりやお手玉をしたり歌詞カードで毎日歌うなど、楽しい時間を持つようにしています。	コロナ禍以来、近隣への散歩の機会が減少しています。車いすの人も含め、戸外への日常的な外出支援が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームではお金を一切持たない、買わないを決めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎日、必ず、家族に手紙を書く方もおり、その気持ちを汲んでメモ用紙、ペンを用意している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	理念どおり常に笑顔を絶やさず和やかな空間づくりをしている 静かな音楽、懐かしい同様がいつもホームに流れている	共有空間は、絵やクリスマスの飾りなどで家庭的な雰囲気にしています。リビングとキッチン是一体感があり、笑い声が絶えません。清掃が行き届き、明るさや温度、湿度、換気に配慮しています。2階への昇降リフトを設置し支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	孤独感を感じさせないよう話しかけたり、一人になりたい時はソファなどをすすめたり、手紙を書いたりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の写真を張ったり、ワンちゃん、猫ちゃんの写真をはったりしている	ドアに利用者の目印の花を掲示しています。全室加湿器を配備し、温度・湿度管理をしています。タンスやテレビ、ペットの写真など馴染みの品を持ち込んでいます。職員手製の誕生日カードもあります。毎日、居室担当と一緒に掃除を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存能力の維持を目指し、軽い介助で気長に洋服を着たりしてもらっている。新聞でゴミ箱を折ってもらったり、テーブル拭き、食器拭きなど喜んでやって下さっている。		

2024年度

事業所名 グループホームふれんど
作成日 令和7年5月8日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	日常的に入居者への希望に届くことができない。しかし買物、電車に乗る遠くへ行きたい、思い出しのそば屋に行きたいなど、思いがけぬところがある。	一人ひとりの希望を全部かなえることはできないが、似たり希望があれば2人ずつ組むなど、あつちご家族員が何人かに選ばれる。	小さな希望から実現させていく。先月までの3回忘食席の為に洋服を自分で送っていた希望でデパートに行った。海苔山、思い出しのそば屋場所をそろそろ候補地を探している。	6ヶ月
2	29	コロナ後はよくコースや似顔絵を撮るボランティアなどがあふれたが、コロナ中止状態が続いている。また心西で介護サービスが再開している。	職員のみではなく地域のみなさんとの接触をもう少しやりたい。入居者が安心して重症者があつちご家族員に相談できる環境を整えたい。	童謡を歌う会などに呼びかけたりお願いしている。又折り紙などを使わずに折り紙グループの教員とも交渉中。	10ヶ月
3	35	災害対策 感染症対策	BCPに沿った避難訓練と定期的な研修修繕しているが、特に職員内で話し合い、表面的な避難訓練だけでなく、対策を考えた。	災害の場合ホームが安全な危険、ホームで避難するが一番安全と言われたが、ホームに留まるのが必要条件などを委員会で行く。	10ヶ月
4	2	事業所（ホーム）と地域の交流のつぎあいがコロナ後少なくなってきた。もう少し和やかに親しくあつちご家族員をした。	同窓会やゴミ拾いなど地域活動は職員を中心にできているが、もう少し認知症の相談にのったり介護の相談とせよとあつちご家族員に重なるように。	介護の相談にのりやす、おの見取り紙としたり、近所の高齢者へ、会ったあつちご家族員の声かけとあつちご家族員が具体的に話すようにしたい。	12ヶ月
5					ヶ月